

「空しい後悔か現在を大切に生きるか」 Iコリント 15：3－11

I 私達は靈的スランプの罠、悪魔の罠に落ち込み易い。それに対抗できるのは、御言葉の力である。御言葉を読み、味わい、いつも心の中で思い巡らす、私達の心が、御言葉に根ざす事である。罠、私達の弱さ＝過去を振り返り、挫折感を抱き続ける。過去の事で、「ああすれば良かった、あれをしなければ良かった、遅すぎた、機会を失ってしまった、今までに、これこれのものを、得てさえいれば」と悔いる、自分を責め続ける。どうしようもない過去を振り返り、後悔し、嘆き続けてしまう。自分が持ち得たと思われる喜びを想像し、もしかしたらという空想の幸福で楽しい人生を想像する（実際は、そうではなく、それぞれに試練があるのが現実である事を忘れて）。「…してさえいれば」という後悔の念に取り付かれる。

II 空しい後悔からの解放の道。正しい意味での反省（反省すべきことを反省し、新しい歩みに、それを良い教訓として生かす）と間違った後悔、精神的落胆との間に明確な境界線が必要である。私達が自覚すべき事＝1. 過去の失敗の為に現在みじめな気持でいるのは全く時間とエネルギーの浪費であるという事。過去は決して変える事は出来ない。腰を下ろして、みじめな気分になり、残された生涯の中、後悔の輪を回る事は出来ても、自分が行ったことを変える事は出来ない。空しい後悔は、何も良い物を生むことはなく、神から与えられている貴重な時間とエネルギーの浪費である。それは、愚かでな事である。自分で変更できない過去について再び心を痛めてはならない。もしそれを続けるなら、悪魔に打ち負かされ、自分を傷つけるだけである。2. 過去にこだわる事は、神から与えられている現在における過ちの原因となる事を悟ろう。どうしようもない過去の事を嘆き悲しみ、自分にできなかつたことを思い出して後悔している間、私達は自分を傷つけ、神から与えられた今すべき働き、使命から身を遠ざけている。変えられない過去の為に、神から与えられている大切な現在を台無しにするのは明らかに間違っている。過去が、大切な現在の上にブレーキとして作用するままにして行くのは間違っている。過去に属することによって、現在の私達が挫折者となって行く事は決して良くない。過去に関する病的なこだわりは、そのように作用する。現在という大切な時に生きる事に失敗している姿。神が与えられた今という時間に生き、キリスト者らしく生きる代わりに、座り込んで過去の事を嘆く事に身を任せではない。過去について心を痛めるあまり、現在何もしようとないう状態にならないように祈りたい。3. 過去への空しい後悔にエネルギーを使うよりも、神が与えられた現在、今を、自分の分、任務を祈り求めつつ精一杯生きる事に励むことは素晴らしい生き方である。「なわめと苦しみが私を待っていると言われることです。けれども、私が自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることができるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません」（使徒20：23，24）。パウロは、こう言っている。「最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、（復活の主は）現れてくださいました」（Iコリ15：8）。彼は、「私が多くの時間を無駄使いしている間に、他の人達はずっと先まで進んで言った」言っているように思われる。しかし彼は、こう言い足すことができた。「私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです」（15：10）。パウロの心を捕えたのは、彼を神の救いと教会に導き入れた驚くべき神の恵みであった。そこで彼は、

神の熱い愛と驚くべき恵みに応えて新しい人生を走り始めた。大切な事は、過去の状態ではなく、現在どうあるかである。昔どういう存在であったかではなく、今どういう存在であるかという点である。

「私は、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです」（Iコリ15：9）と告白したパウロはこう付け加える。「ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました」（15：10）。かつて自分がどういう者であったかということにこだわり過ぎてはならない。信仰的な考え方の秘訣は、「今の自分がどういう状態にあるか」を考える事である。皆、あらゆる種類の罪に満ちた過去がある事は確か。しかし、自分に向かってこう宣言しよう。「神の驚くべき恵みで罪を赦され、永遠の命、新しい性質、新しい力を与えられた。この罪人のかしらである私が神を賛美せずして、だれが神を讃える事ができようか」。過去がどうであったにせよ、神の恵みで「私は今の私になった」のである。大切なのは、主にある今の自分。「今の私」とは、主の十字架の血によつて罪を赦され、神と和解させられ、神に愛されている神の子供である。神の家族に受け入れられている。神の驚く恵みを受けた私達が、目指すのは、神の栄光。 4. 自分がした過去の事を後悔し続ける問題点は、事の判断を神に委ねる代わりに自分で自分を評価し、自分をさばき、責め、自分を傷つけている事。「ああすれば良かった、あれをしなければ良かった」と自分を責め続ける。この事について大切な御言葉がある→「私にとっては、あなたがたによる判定、あるいは、およそ人間による判決を受けることは、非常に小さなことです。事実、私は自分で自分をさばくことさえしません。…私をさばく方は主です。ですから、あなたがたは、主が来られるまでは、何についても、先走ったさばきをしていけません」 Iコリ4：3－5。だから、自分の事を忘れ、いつさいの判断を神に任せよう。そして、現在、神から与えられた任務、奉仕に着手しよう。「うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目指して一心に走っているのです」 ピリピ3：13， 14。変えられない過去への後悔にエネルギーを使うのではなく、前向きに、今、共におられる主を見つめて歩みたい。神の愛、恵みに応えて「自分を捨て、自分の十字架（主の為の苦しみ）を負い、そして主について行く」ことができますように。自分の過去、現在、未来のすべてを主の御手に委ねることが出来ますように。ひたすら神を見上げる事に時間をもっと用いる時、私達は自分の事を忘れることが出来る。無駄な後悔を止め、神のわざを楽しみ、神の御業を待ち望もう。神の前に大切なのは、奉仕の時間数や期間ではなく、神への態度、神に喜んでいただきたいという切なる願いである事を学べますように。神の前では、年齢は、問題ではない。老若を気にし過ぎるのは聖書的ではない。「朝のうちに、種を蒔け」とあるが、「夕方も手を放してはいけない」と言われている。伝道者の書11：6。励ましの御言葉がある→「いなご…が、食い尽くした年々を、わたしはあなたがたに償おう」（ヨエル2：25）。神は約束され、それを実現する力を持っておられる。決して過去の後悔に大切な時間を浪費してはならない。現在と言う大切な時を神と共に過ぎし使おう。「主は恵もうと待っておられ、あなたがたをあわれもうと立ち上がられる。主は正義の神であるからだ。幸いなことよ。主を待ち望むすべての者は」 イザヤ30：18